



「万博記念公園 太陽の塔」

1970

写真提供:大阪府

公式キャラクター
「ミヤクミヤク」

©Expo 2025

マスコットキャラクター
「花ずきんちゃん」

1990

提供:公益財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会

特集

2025年 大阪・関西万博

1990年(平成2年)国際花と緑の博覧会(以下「花の万博」)の開催地である鶴見区では、大阪市内で唯一の万博開催地として、2025年(令和7年)開催の大阪・関西万博を盛り上げられるよう、区役所としてもさまざまな応援をしています。

そこで3月号では、区民の皆さんにゆかりのある花の万博と、多くの方の記憶に残っている大阪万博の写真なども交え、来たる2025年大阪・関西万博を楽しみにしてもらえような特集を組みました。

大阪・関西万博
について▶

1970

日本中が興奮した

大阪万博



写真提供:大阪府

1970年(昭和45年)に、吹田市の千里丘陵において開催。海外から76か国、4国際機関、国内から32団体などが参加した大阪万博は、6,421万人を上回る入場者数を誇り、1日の最高入場者数は、なんと約83万人に達しました。

芸術家の岡本太郎氏がデザインした「太陽の塔」が、シンボルゾーンにテーマ館の一部として造られたことは有名な話。現在も万博記念公園に残るこの塔は、大阪万博のテーマである「人類の進歩と調和」の“原点”の“起点”として、現在も皆さんに親しまれています。



これからに期待しかない!

2025

大阪・関西万博

2025年(令和7年)、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、大阪の夢洲において開催される大阪・関西万博は、開催までいよいよ400日あまりとなりました。参加国は、2024年1月16日現在で160か国・地域と、9国際機関。公式キャラクター「ミヤクミヤク」は世界中から愛され、親しみを持たれることをめざしています。

パビリオンの「日本館」では、万博会場の生ゴミを利用したバイオガス発電などを活用し、一つの循環を創出。持続可能な社会に向けた、来場者の行動変容を促します。

未来を体験できるのはパビリオンだけではなく、交通手段やエネルギー、通信や映像機器、さまざまなイベントや体験型展示など、会場全体が「未来社会のショーケース」となります。大阪では55年ぶりの開催となる万博。見て、さわって、体験して——ぜひ会場で未来を味わってください。



1990

遊びに行かれた方も多い!?

花の万博

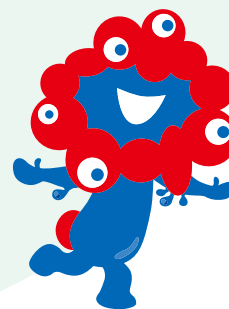


提供:公益財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会

1990年(平成2年)、「自然と人間の共生」をテーマに、鶴見緑地において開催。海外から82か国、55国際機関、国内からは都道府県、政令指定都市などが参加し、2,312万人を上回る入場者数を数えました。

マスコットキャラクターの「花ずきんちゃん」は、全国から寄せられた9,603点もの応募作品の中から、漫画家の手塚治虫氏が委員長を務める審査会において選定。手塚委員長が補作して完成しました。

この花の万博をきっかけに地下鉄の整備が進んだことで、その後鶴見区は大きく発展。そして鶴見緑地は、現在も花の万博のレガシーとして存在し、みなさんの憩いの場として活用されています。



開催期間

2025年(令和7年)4月13日(日)～10月13日(月)

開催場所

大阪 夢洲(ゆめしま)



提供:2025年日本国際博覧会協会